

.....「史料紹介コーナー」.....

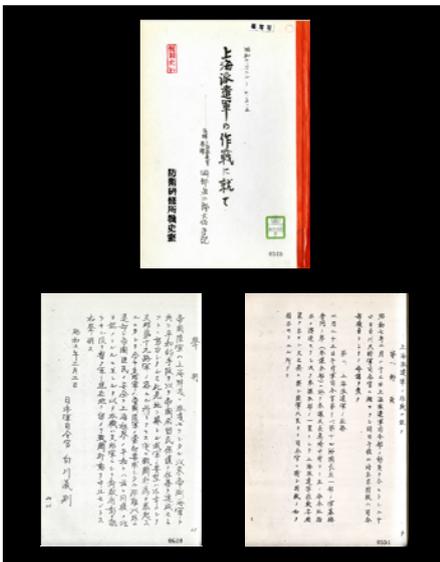
平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

しらかわ よしのり
 《 白川 義則 1869～1932年 》
 —愛媛県出身の陸軍大将—



上聞案 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-545)

白川義則大将は、明治23年7月、陸軍士官学校(1期)を卒業後、関東軍司令官、陸軍大臣、上海派遣軍司令官などの要職を歴任しました。この史料は「上聞案(関東軍ノ状況ニ就テ)」(昭和6年11月7日付)で、当時軍事参議官であった白川大将が、陸軍三長官(陸軍大臣、参謀長、教育總監)の委嘱により、昭和6年10月18日から約2週間にわたり、関東軍の状況を視察した結果をまとめたものです。これによれば関東軍は、同年9月18日の満州事変勃発以来、「鉄道沿線ニ於ケル支那軍隊ノ掃討及馬賊竝ニ不逞解散兵等ノ奪略行為ニ対シテ在留邦人並朝鮮人ノ保護ニ従事」してきたが、国際連盟等は事態收拾のため、「満鉄附属地外ノ部隊ヲ撤収スヘキコトヲ論説スト雖(中略)事態ノ治マラサル限り我側方配備ノ撤退ハ不可能ナルヲ確認ス」と報告しています。



上海派遣軍の作戦に就て (登録番号：陸軍省-大日記甲輯-T2-1-7)

満州事変勃発以降、中国全土に排日運動が激化する中、昭和7年1月28日、上海で日本海軍と中国軍の最初の軍事衝突(第一次上海事変)が発生します。2月2日、海軍側の要請により、陸軍も第9師団と混成第24旅団を上海に派遣、中国軍を正面から攻撃しますが、戦況は進展しません。2月24日、陸軍は、第11、第14の両師団を増派し上海派遣軍を編成、白川大将を軍司令官に任命します。3月1日、第11師団を中国軍の側背から上陸・攻撃させたことによって、中国軍は一挙に後退します。「迅速且有利ニ時局ヲ收拾スル」ことを求められていた白川軍司令官は、3月3日、「支那軍ニシテ対敵行動ヲ執ラサル限り(中略)戦闘行為ヲ中止セントス」との声明を発表、戦火は事実上収束します。この史料は「上海派遣軍の作戦に就て」で、上記作戦の経緯などが記述されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>